

【三〇代】

閉幕とともに爽快感を味わいました。舞台と客席が一体となり、演劇の素晴らしさを実感した一本でした。(女性)

殿様がダンスを上手く踊れるようになってめでたしという単純な芝居だと思っていました。奥が深い！泣けました。(男性)

分かりやすく面白かったが、殿様の許容力がありすぎでは？「二度目の人生」を謳歌していたと感じた。(男性)

なぜ殿様が、明治の世は生きにくいと言うのか、あの殿様を見ていると少し解せませんが、全体としては面白い！(女性)

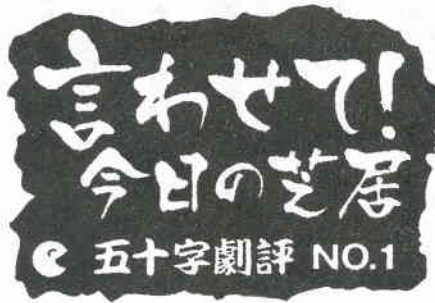
【四〇代】

殿様スマイルがよかったです。カートライト先生のジェスチャーは、もう少し大ききでもよかったですかも。(女性)

昨日の十月例会「殿様と私」は、とても面白いお芝居でした。踊りを踊った事ない殿様がレッスンを受けて踊れる様になる迄をユーモラスたつぷりに演じて

いるところが、観て面白かったです。最後は上手に踊ってびつくりしてしまいました。楽しい時間を有難うございました。(女性)

殿様と私(文学座)



【五〇代】

おもしろかったです。時代に生きた人達の切なさが充分わかるのに、どこか笑ってしまつて現代に通じる所あり。悲しいけれど救いあり、コミカルなのにふざけていない、とても上品な作品と思えました。(女性)

役者も凄く良く、作品の演出もとても良かった。壺も壊れたけど、時代も移り変わるのも受け入れる心。(女性)

タイトルで、ユル・プリンナ1の映画「王様と私」の日本版？との期待は、良い意味で裏切られました。(女性)

殿様は、もしかしたら死に場所を探している雛田のことを思い、表向き「殿様」を通していたのか？「マゾノキノミ」(女性)

加藤武・寺田路恵の、所作言葉づかいに感心。アンナ先生と殿様とのラストの各々の人生観と交流に拍手。(女性)

【六〇代】

歴史の真実！戦争への道は国民に隠して進められた。楽しく観ましたが、私達はその裏側に敏感でなければ、です。(女性)

マキノノゾミへの過大な期待だったのか、予定調和的で客うけするように考えたのかと感じて少々残念。(女性)

殿様と私であるが、殿様と雪絵であり三太郎であった。各々の登場人物に存在感があり、特に終わりが秀逸だった。(男性)

芝居は近くで見ると限る！三列目で観て、もう最高の感動。細かな所作が見事でした。まだ早いけど今年が一番！？(女性)

すごく楽しいお芝居で、二時間三五分、苦になりませんでした。でも、殿様は西洋嫌いのはずが、舞台は洋間の部屋には驚きでした。殿様とカートランド婦人の台詞は、日本語なのに通訳が間に入るといったお芝居は初めての体験でしたが、すんなりお芝居に入っていました。たかお鷹さんと加藤武さんが逆の役だったら、どんなお芝居になったでしょうね？(女性)

ウツになりそうな葛藤を抱えながら、人は中々の事もやり遂げてきて妙な存在ですね。美しく笑える舞台に感謝。(女性)



雪絵に米国と自分の全てを注ぎ込んであげたいと言うアンナに、現憲法の下地を支えた米国女性が重なりました。(男性)

急激な西洋化になじめない殿様が、ダンスを習う事になった変化を見事に演じた、たかお鷹さんにパチパチ拍手です。(女性)

生真面目さがコミカルにも見える、加藤武さんの家来も存在感があった。本当にとっても良いお芝居でした。(女性)

この芝居の白眉は、殿様と家来の時代錯誤的なやり取りの面白さと全体を覆う人間讃歌。今年一番の面白さ。(男性)

今年一番では。楽しく心がほつこりと！最後の踊るシーンでは自然と手拍子がでる一体感で感激！(女性)

身分が、話し振りや態度で明確に演じ分けられていて、話に入り易かった。最後、雪絵の前向きな姿勢に安堵。(男性)

魅せられました！演技の質の高

さと演劇の深さに。時代を生きたとはどういうことか。今問われているのでは。(男性)

文明開化の戸惑いをコミカルに表現！素直に楽しめた作品。脚本・演出の力に文学座が磨きをかけたのだろうか？(女性)

楽しく笑えました。加藤武さんの声、今まで「ダミ声」だと思っていました。生のは大変魅力的でした。終わり。(男性)

「殿様と私」の私って誰を指すのか？源右衛門？と思ってしまう程二人の頑固ぶりが、ユーモラスで良かった。(女性)

舞台装置が本格的で素晴らしかった。障子越しに外の雪が映る場面がとつてもきれいで、「さすがだな」と。(女性)

維新後の子爵邸を舞台に、日米英の登場人物の異文化接触による悲喜劇を、全編日本語で表現しきった事が凄い。(女性)

【七〇代】

新しい時代に順応出来ない老人と、文明開化を謳歌する若者との

対比が面白く、寺田路恵と加藤武の演技はさすがだと思った。(女性)

最後の方の英語？と日本語の囁み合っているようなないような絶妙なやり取りが、楽しくまたジンときた。(女性)

軽妙な構成で楽しませて貰いました。車夫の巧みな喋りが心地よく、雪絵の衣装は時代を映していて素敵でした。(女性)

【八〇代】

民芸のどろんどろん、文学座の芝居、しばらく振りに堪能させて貰いました。どの役者さんも素晴らしかったです。(女性)

【年齢・性別表記なし】

客席の心を惹き付けるポイントをわきまえたエンターテイメントの達人たち！安心して堪能出来ました！

アンナと殿様がいつ踊るかが私にとって意外なラストで登場。してやられたり。マキノノゾミの手腕に脱帽した。

今回は一番前の席で観ました

が、「はまき」は本物でとてもよい香りがしました。一番前の席もたまにはいいね。

時代の変化の中で、改革と踏襲のせめぎ合いが鋭くもコミカルに演じられ、観客を時の人に吸い込んでいただいた。

殿様と私は、テンポ良いお話しで、見終わって心があつたまつた。ダンスに合わせて自然に手拍子打つてた。

さすが文学座。上品で楽しく可笑しく、化粧、衣装、雪絵さんの優しい語り、カネさんの所作、すべてに拍手喝采です。



編集スタッフから

・白紙のFAX一件。FAX挿入時、原稿裏表の確認を！
・五十文字以内での投稿を！
(今回はカットせず掲載。)